

7.11 「男子部」 7.19 「女子部」 結成記念日

1 枚目／男女青年部の結成／男子部の結成（5枚目の絵の裏に貼る）

1951（昭和26）年5月3日に「75万世帯の弘教」という誓願を掲げて創価学会第二代会長に就任した戸田先生は、広宣流布の遠大な未来を展望し、「広布の全責任を担う組織」として、同年7月に青年部を結成しました。その陰には、師匠の事業の最大の苦境をたった一人でお守りした、不二の弟子である池田先生の姿がありました。7月11日に行われた男子部結成式は、まさに師弟不二で苦難を勝ち越えて迎えた式典だったのです。結成式の際、戸田先生は語りました。「きょう、ここに集まられた諸君のなかから、必ずや、次の創価学会会長が現れるであろう」と。

池田先生は述懐しています。「その師の声を、私は会場の一角で、若き生命に刻みつけていた。それは、大難を勝ち越えた師と弟子との二人の儀式であったからだ」と。

2 枚目／女子部の結成（1枚目の絵の裏に貼る）

男子部結成に次いで、7月19日には女子部の結成式が行われました。

戸田先生は旧学会本部に集まった74人のメンバーを前に、「学会の女子部員は、一人のこらず幸福になるんですよ」と慈愛を込めて呼び掛けました。幸福境涯を開くために「純粋な、強い信心に生き抜く」ことを訴えて、女子部の前途を祝福したのです。

池田先生は、女子部への想いを後にこう綴っています。

「わが女子部の皆さんは、自分自身が、一人ももれなく、「幸福の太陽」である。

ゆえに、自らの境遇を嘆く必要もなければ、人をうらやむ必要もないのだ。

題目を朗々と唱えながら、明るく朗らかに、自分らしい生命の光を、勇気凛々と、そして、自信満々に放っていけばよい」

3 枚目／人材グループ（2枚目の絵の裏に貼る）

男女青年部の結成を受け、翌年の1952年には「華のように美しく、太陽のように誇り高くあれ！」との思いをこめ、女子部の「華陽会」、男子部の「水滸会」という人材グループが結成されました。その伝統は現在、池田先生が結成した「池田華陽会」「白蓮グループ」「創価班」「牙城会」などに厳然と脈打っています。

師匠からの渾身の激励を胸に、職場や地域、それぞれの使命の場で奮闘する青年部員。「信心即生活」「仏法即社会」の実証を厳然と示す感動の体験、歓喜のドラマは尽きません。

4枚目／青年部を直接激励（3枚目の絵の裏に貼る）

池田先生は折りに触れて、本部幹部会の席上などで、海外の青年部メンバー、鼓笛隊や音楽隊のメンバーに直接声をかけて激励してきました。また、日々の聖教新聞紙面などのご指導を通して、日夜奮闘する青年部に励ましをおくり続けています。一人でも多くのメンバーを、直接激励する想いで連載された「御書と青年」の中では、次のように指導をしました。

「どんな問題であれ、「これですべてがうまくいく」という、魔法のような解決策などない。祈って苦勞し抜いて、一つ一つ乗り越えていく以外にない。仕事も同じです。そして最後は一切が大善に変わり、必ず打開できる。これが「絶対勝利の信心」です」

5枚目／「創価青年学会」の誇りも高く師匠にお応えする戦いを（4枚目の絵の裏に貼る）

池田先生は、青年部に対する思いをこう語っています。

「広宣流布の『道』はできた。『城』もできた。あとは、『人』である。未来は、若き君たちにかかっている。今、本気でやらなければ、後悔の人生となる。結局は、自分が損をするだけだ。広布の労苦は、すべて、自分自身のためになる。妙法に生き抜く人は、永遠の『福運』を積み、永遠の『宝』と『力』を持つことができるのである。ゆえに、つらくとも、歯を食いしばって耐えるのだ。断じて戦うことだ」  
私たち男女青年部は、「創価青年学会」の誇りも高く、師匠のご期待にお応えする戦いをして参りましょう。

決意など